

東京学芸大学附属学校に おける学校図書館活用の 現状と課題

帝京大学
鎌田和宏

現 状

● 学校図書館整備は進行中

● 利用者にとって不十分？

● 各校支援も重要

堀井実践

荒井実践

● 司書の存在 **大**

野原実践

→ 安定して機能できるように整備が必要では？

→ 正規の学校スタッフに

※ 教員養成校・研究開発学校を支援可能に

● 授業での活用も始まっている (教科・特活)

● 情報活用のためにも図書資料は有意義

● 安定した学校図書館経営の必要性

● 附属学校各校の学校図書館支援の必要性 (Center機能)

課題

- 新学習指導要領本格実施→求められている
- 教師の意識改革が重要 (金中)
- 新単元の開発 (金小) →意義は大きい
- 国語以外での活用を検討 (各校)
 - 多様な教科での活用が始まっている各校
- 学校図書館の再評価→周辺から中心に
- 計画的な活用→教育課程に位置づける
 - 実践可能となるよう整備が必要